

あいさつ

稲化会会長 高宮 信夫

今年は化学科創設15周年に相当するが取り立てて何か記念行事を行なうといったような予定はない。組織としての成長過程を考えてみれば揺籃期をようやく脱し、基盤が固まりつつある時期と考えることができよう。昭和48年に第1期生として入学した卒業生は現在33才か34才である筈であり、社会においてようやく中堅の仲間入りをする頃であろう。これからが働き盛りといった所である。

化学科では今年4月より無機化学を専門とする石原浩二専任講師をお迎え出来たことは大変喜ばしい。化学科として一層発展を続ける上で強力なスタッフとして御活躍頂けるものと思っている次第である。

今、理工学部全体としては創立80周年記念行事に取り組んでおり、この流れの中で化学科および稲化会の一層の発展の方途を模索している所である。皆さんの御健闘を祈ります。

特別寄稿

老人の追想と放談

東 健一

1963年の日本化学会の祝宴だったと記憶します。関根吉郎先生から北大定年のあとぜひ早稲田大学に來いと云うお誘いを受けました。関根先生と私とは同潤会江戸川アパートの住人として旧知の間柄だったのです。

1968年4月私は早大理工学部教授となり応用化学科に籍をおきました。私の任務は化学科新設の援助にあったのですが、化学科が出来たのは1974年でした。私はその翌年には早大を去ることになり、化学科の学生諸君にたいしてほとんど云うより全く何のお役に立ちませんでした。化学科創設15周年を記念して私に何か書けとのお仰せをいただき老人の放言を申し上げます。

人生の折目を55才とすると化学科の学生及び卒業生諸君は人生の前半期におられます。そして35才までの各人の活動がその人の後半期を支配すると申し上げたい。

ここで国立大学の助手である卒業生を対象とする私の忠告を聞いてみませう。「一年に3篇かそれ以上の論文を学術誌に発表せよ」

ということです。そしてその論文には新しい着想とか珍しい発見などによって卓抜な論文と云われるものをお書き下さい。海外での引用数(CI)も20をこえ、海外に貴君の名前が知られると云った種類のものです。もし幸運がつづけば日本化学会の進歩賞も受賞できると云ったものです。若しも35才までにこの種の業績をあげるになれば、学界の地位も後半期において確立いたしませう。少くも万年助手の運命はさげられませう。

企業における諸君の先輩にはこの時期において社長賞を数回うけ、早大卒業生の評価を高めた人が居ります。企業においては早大の先輩が多いので諸君の活躍はただちに先輩の注意を引きますが、学界や教育界では早大出身者は少数です。従って自分の道は自分で切り開かねばなりません。35才までに猛烈な頑張りとその成果とが先輩のいない社会において特に必要となる次第です。

私は戦中戦後の数年間東大第二工学部で教えていましたが、この第二工学部は8週の卒業生を送り出すと消滅しました。最近早大出身のジャーナリスト今岡和彦著「東京大学第二工学部」はベストセラーになりましたが、これによると現在の日本の大企業のリーダーたちがこの消滅した学部の出身者の由です。

第二工学部の校舎は木造二階建のバラックで極端に悪い教育条件でありながら人材の養成には奇跡的成功を収めたのでした。私共の化学科もその設立状況において決して立派なものではなかったのは御承知の通りです。しかしながら諸君の前途は賢明な判断と勇氣ある努力によって大道が切り開かれると確信します。早稲田出身者は独創と勇氣とが特色ではないか。

教授随想

多田 愈

研究の終りあるいは始まり

私が初めて研究らしきことを始めたのは微生物代謝産物の構造決定の仕事である。そこで初めてカビの単離、分類をした。雑菌類の混じった試料からたんねんに培養を繰り返し、純粋な菌を分けてその菌をタンク培養し、代謝物を作った。ちょうど同僚がバクテリアの分類研究を行っており、私もよく手伝ってやったものである。彼は炭化水素資化菌と言って炭素源としてメタンやエタンのみで生きていられる菌を研究していた。私の手伝いと言うのは、一緒に秋田や新潟に行って油田に立ち寄り油井から原油をくみ取ってくることである。彼は油井に生息する菌を分類し、その分布から油田の性質が分かるのではないかと saying していた。デシケーター中の水ガラスに窒素源やイオウ源を入れておき空気とメタンガスを入れておくと立派に菌が生育していた。十年くらい経って石油で生育する酵母菌があり、その菌体が石油蛋白と呼ばれていることを知った。私の友人は石油資化菌の存在を確認してやめてしまったが、いま一つ先を読み、石油蛋白等と言う忌まわしいネーミングでなく、バイオプロテインとでも軽薄なネーミングをしていれば違った結果が世に知られていたかもしれないと思っている。

時々年末になると誰彼はもう卒論が終ったらしい、などと噂しているのを聞くことがある。私はそれはないと思う。研究においては、あることが明らかになればその結果は必ず新しい疑問を投げかけてきたり、その結果を武器として新しい分野への研究意欲をかきたて

られるものである。研究に終点を想定しないのが私のやり方である。私と同じ結果を出してそれを全く別の方向に発展させ一躍名を上げた人物等が出てくると悔しい思いをするが、ちょっとしたことに気が付かなかった自分が悪いのである。なんとかしてそれを見逃さない感性を養っておきたいものである。

石原浩二

稲化会第一期生と同年に理工学部化学科を卒業しました。といっても早稲田大学ではありません。埼玉県川越市に生まれ、同市内の公立高校と同県内の国立大学を卒業しました。大学2年生の時に無機化学のM教授に（俗に言えば）惚れ込み、これが無機化学の分野に足を踏み入れるきっかけとなりました。当時、大学院がなかった（ほとんどの新制大学がそうでしたが）ために、進学するには他大学へ行かざるを得ない状況にありました。同級生がことごとく都内の大学院に進学するのをよそに、M教授の強い奨めで、教授の東大時代の後輩にあたる分析化学のT教授（名古屋大学理学部）の研究室にお世話になることにしました。以来、大学院と助手の10余年を名古屋で過ごしました。

授業は1年生の無機化学A（必修）と3年生の無機反応論（選択）を担当しています。

さて、研究とは言いますと、金属錯体の反応機構に関する基礎的研究です。もともと分析化学で用いられていた反応のメカニズムを明らかにするために始めた研究ですが、今では錯体化学的色彩が濃くなっています。また、私の研究の約半分は、そのような基礎的研究を行うための新しい装置づくりです。高圧ストップフロー装置（吸光度検出、電気伝導度検出）や高圧NMR装置を完成させ、現在ではNMR検出の高圧ストップフロー装置（つまり、高圧ストップフローNMR装置）の開発を行なっています。

趣味は運動です。下手の何とやらで、草野球、テニス、バドミントン、スキー、山歩きなど色々と。他に古典音楽やお酒も少々。特に、カルガリーでの生活の癖が抜けず、山歩きやスキーには毎年必ず出かけています。

研究室紹介

◇ 井口 研

当研究室ではコンピュータを駆使して量子化学及び物性物理の理論研究を行なっている。では簡単にメンバー紹介を。

まずはS・O氏。ポート部で鍛えた身体は失礼ながら理論を専攻する者には見えない。女性にやさしいことで定評がある。当研究室を訪れた女性には氏が真心こめてコーヒーをいれてくれることだろう。屈強のタフガイだが、いたずらを好むおちゃめでもある。

H・F氏は砂糖をしこたまぶしたカツどんを平気でたいらげてしまうほどの覚悟ある人物だが、そろそろ就職活動を始めなければとさすがにあせっているらしい。麻雀狂である。

Y・M氏は最近H・F氏につられて「三国志」なるコンピュータ・ゲームに凝っているが、どうも要領を得ないようである。毎週のゼミで発揮される氏の豪快な計算力にはいつもたじたじとなっている。

卓球をすれば打球は全部スマッシュというT・O氏。小細工を弄せずパワーで押しまくるところは江戸っ子気質のあらわれだろうか。いや、単にスマッシュしか打てないということなのだろう。

当研究室のBrainであるK・S氏。どんな質問にもたちどころに答えてくれる。皆からの信頼性大。相撲でいえば千代の富士、クイズダービーでいえばはらたいらである。

同じくBrainであるK・K氏は半絶望的の阪神ファンである。ゴルフゲームでちょっとスコアを崩すとリセットボタンで最初からやり直すあの癖だけはやめていただきたいものだ。

T・Y氏は毎日朝早くから登校して論文と格闘している。寡黙だが、田村正和を地でいっている。りりしい。

なかなかお目にかかれないH・S氏だが、来るときはいつもフルフェイスのヘルメットを抱えて登場する。FXを駆るRiderである。オンジャレだ。

そして筆者はまずいまずいと思いながら毎日寝坊で遅刻してくるB4である。競馬の鬼

である。週末は後楽園にいます。

以上のメンバーが井口先生の御指導の下に日々理論研究にいそしんでいるのであります。気軽に遊びに来て下さい。(Y・M)

◇ 伊藤(紘) 研

こんにちは。浜村純です。およびでない？こりゃまたしつれい。

さて、それはさておき、研究室紹介やってちゃんまげ！さて、私が紹介者を勤める4年生の日々、学問洞究・研究ざんまいの通称プリン吸引男、略してプリンと呼んで下さい。それでは、くそくそまじめの先輩M氏にインタビューします。

さてー、小林勘吾です。おっと、ちょっと島倉千代の富士。怒らないでインタビューにつきあって下さい。手短かに研究概要を説明して下さい。

M氏曰く、従来より当研究室におきましては、

①種々の生体有色分子の共鳴ラマンスペクトルを測定し、各々の分子構造を、明らかにする。

②核酸塩基、アミノ酸、ピペリジン等の金属、コロイド表面での挙動及び構造変化をSERS分光法を用いて解析する。

③高真空下での金属蒸着膜上吸着種の解析をする。

④上述の試料をマトリックスアイソレーション法を用いてその励起状態を観測する。等を行っております。Mさん、どうも有難うございました。ほえー、こりゃまた大変むずかしそうだ、とお思いでしょうが、当研究室は人材の宝庫、やるときはやるやる、遊ぶときは遊ぶ遊ぶ。まかせなさい！と、いっときましょ。個性的な人材を期待しています。以上プリンがおつたえしました。おっと、なお、伊藤先生訳のラマン分光法は、必読の書といっときましょ。ばいばい。

(文責)P!

◇ 伊藤(礼) 研

嗚呼！麗しの伊藤(礼)研

伊藤(礼)研の名声については、海外にまで広く知れ渡っている位であるから、今さら説明するまでもないが、この読者の中には光GENJIを知らないという人もあるらしいの

で、現在の状況を述べさせて頂きたい。

昨年一年間に雑誌に載った論文の数に関しては、私は全くわからない。というのは、当研究室の論文の掲載された雑誌を一々保存していたのでは、部屋中雑誌だらけになってしまい身動きが取れなくなってしまうからである。86年から87年前半にかけて、レコード売上げのベストテンにおニャン子出身の歌手がずらりと並んだ頃から、私はある不安を感じずにはいられなかった。「近い将来、ノーベル賞の授与式が、伊藤研の同窓会になって白けてしまうのではないか…」と。実際、「汝臣民飢えて死ぬべし」と言われた敗戦直後のどん底の時代から、地価がおもいきり高くなって、ヤクルトスワローズがめっきり弱くなった暗黒時代に至るまで、伊藤研は常に日本をリードして来た。まさに、伊藤研の歴史は日本の戦後史そのものであると言っても過言ではない。

この様な伊藤研の栄光と繁栄の基となっている物は一体何か？それは環境である。51号館12階の私の席からは百人町の木造不良住宅越しに、大久保の薄汚いラブホテル群や、雀荘や、会計事務所等の入ったセコい雑居ビル等が望めて、胸のすく様な眺めである。夕方になると伊勢丹や丸井の赤いネオンがチカチカと下品に瞬き、昨今の不動産ブームで目立って来たクレーンと相まって、昭和30年代の貧乏時代にタイムスリップしたかの様なノスタルジイを感じさせて呉れる。窓際に近づけば新宿の高層ビルも望めるがそれは出来ない。51号館が倒れてしまうからである。伊藤研は飲み水も良い。鉄イオンを中心としたミネラルが多量に含まれているので、これを飲めば体内の悪い細菌が死んで、たちまち健康になってしまう。

以前、知人が私に次の様な事をこっそり打ち明けて呉れたことがある。「伊藤研は文学で言えばトルストイの『戦争と平和』である。絵画ならピカソの『ゲルニカ』である。伊藤研は科学史の中心である」

この知人が幸徳会宇都宮病院の病室から手を振っているのを見たという人があったが、私は人違いであると信じている。

◇ 高橋 研

明るくざっくばらんな高橋教授以下、現在総勢11名で頑張っている高橋研では、時間分解共鳴ラマン分光および共鳴CARS分光法によるフォトクロミズムの研究を行なっています。これまでとは少し雰囲気も変わって、分厚い論文集を輪読するゼミが始まり、ここでの立ち話が学問上の討論となっています。(ん～、アカデミック)

来年度には億を超えるピコ秒レーザーによる測定システムが51号館10階にはいり、装置は世界のトップレベルになる予定です。(ん～、アカデミック)

速射砲のごとく論文がでるようになったので、研究室の学生は、皆あたふたしています。しかしある程度急いでデータをまとめるのも必要かもしれません。海外の学者グループに先を越されたテーマもあったからです。競争は世界的なものです。

(ん～、アカデミック)

このようなアカデミックな雰囲気の中、就職活動などに励んでいた私などは完全にカヤの外になってしまいました。これまでと違ってさかんになった“発進”の方へは参加するようにしているのですが…。残り時間頑張ろうと。

◇ 高宮 研

1987年稲化会報によれば、早大理工化学科高宮研では白金、ロジウムにかわる触媒として有望な金属フタロシアニオンが合成されると報告されている。この物質が今後の世界の化学産業にとっては勿論のこと軍事的にも重要であることは周知である。このフタロシアニオンを各国が見逃すはずはなく既に同研究室に破壊工作員が流れ込んだとの未確認情報を我々は得た。さて、高宮研はM₂×1+M₁×4+B₄×4で構成される。Ne氏は御本尊で他の生殺与奪の権を握る。As氏フタロシアニオン合成を直接手がけており最も狙われやすい。先日酔っぱらいを装った暴漢に襲われた。Coは好青年であるが、ミカエルスーメンテン型の挙動を示すとDr.Uは報告している。Y氏はかつて風船爆弾を作っていたとの内部告発がある。Yb氏は爆発的な勢いで合成を行っているが先日本当に爆発させて

しまった。Siは都化連なる怪しげな組織に所属しておりAs氏殴打事件の重要参考人である。Taの本名は「朴」でAs氏のノウハウを第三国に流している疑いがある。Nは数々の未遂事件の末本国から見放され日本企業との間で就職活動を行っている。Bは野球大会のために来日しボブと呼ばれ親しまれているが短気である。ソウルオリンピックが終わり真犯人が明らかになった。それが構造研のU氏であったことは言うまでもない。

◇ 多田研

現在多田研は、M2三人、M1二人、B4五人ですが、その中で女性が三人もいるというめぐまれた環境の中で、様々な匂いにも負けず、毎日楽しく実験しています。それでは個性あふれるみなさんを紹介しましょう。

まずM2。多田研に住んでいるといわれるM氏。このまま多田研に就職すると思われたのですが、残念ながら企業にってしまうようです。ひげが素敵なG氏、彼はみんなの人気者です。いつも彼のまわりには人が集まってきました。たまに一人でいるときは、うたいながらおどっています。私はそんなG氏が大好きです。そして、やさしいお姉さまY嬢。いつも明るく魅力的なのですが、残念ながら年下の男の子には興味がないそうです。

つづいてM1。笑顔がかわいいH氏。一時話題になったお弁当は、最近見られません。そしてジャーニーズS氏。病弱なのですが、野球と卓球はバツグン。彼は多田研の少年隊なのです。

最後はB4。いつも無口でボディランゲージが得意なH君。映画にくわしいS君。映画は誰と見にしているのでしょうか。博多人形のようにかわいいSさん。彼女のファンを私は数多く知っています。そして孤高のFさん。彼女は動物好きのやさしい才女です。ちなみに私は、Fさんとお話をするのが大好きです。

そして、みんなのお父さん多田先生。先生はいつもみんなの面倒を、親切にみてるやさしい先生です。

さて研究内容は、

1. コバルト補酵素モデルに関する研究。
2. 含窒素ヘテロ環補酵素モデルに関する研

究。

3. ラジカル反応を利用した合成反応です。つまり、多田研は有機化学の中でも、ラジカル反応を中心とした研究室です。みなさん遊びに来てください。

(Tom)

◇ 新田研

新生新田研は昨年よりさらに2人増え、先生を含め14人になりました。実に一昨年の倍となってしまいました。そんな超過密状態の中で一同賑やかに実験にいそんでいます。

まずはメンバー紹介といきましょう。今年から助手となりリッチになった重鎮宮野師(D3)、身も心も若々しい飯野師、外見と中身のギャップの激しい鹿又師(以上D2)、怒った姿をいまだに見たことがない酒豪西村氏、風流な家元多田氏、知識が豊富なここにご添田氏(以上M2)、実験の手際の良さには目をみはるものがある杉山氏、断食が得意な浜松(以上M1)、彗星のごとく現れては去って行く鎌田氏(?)、マイペースの大槻君、飲むとパワー全開、化学科の次女王大沼嬢、互いの相乗効果で無限のノリを示すロック小僧森君とサッカー小僧川地君(以上B4)、と言った面々です。我等がボス、新田先生はいつも研究室で学生と実験などの話をしていっしょに過ごされる学生思いの先生で、今年は就職担当になられ、論文書き等ともあいまって大変忙しい毎日を送られています。

新田研の一年間を簡単に紹介しますと、3月、新年度開始、有機研新歓コンパ。4月、学会、花見、新歓コンパ。5月、野球大会、化学科オリエンテーション。8月、夏休み、合宿(湯治を兼ねた勉強会、3泊4日)。9月、学会。10月、野球大会。12月、有機研ゼミ旅行。2月、卒・修論発表会、となっています。学会には毎回数報の発表があります。このように、研究面レクリエーション面供々非常に充実しています。

最後に研究内容は、複素環化合物や高歪み化合物など有機化合物の合成および物性、反応性などについて研究を行なっています。詳しくは直接新田研までどうぞ。

◇ 松本研

この物語は紀元前六千年頃まだ人類が誕生して間も無い頃のものである。カツオは其の父TAケンの勇者の血を引く。

母カズコ「さあ起きなさい、カツオ。貴方が十六歳になった誕生日に王様に会いに行けとのお父様の言い付けですよ。私について来なさい」

アベ王「この城の北に行くとかメイドームという町がある。そこでお前の戦友に会うであろう。遊び人だがいよいよましだ。さあ行くが良い」

カツオは城を出る。森の中に入る。スライムベス登場。カツオ攻撃。スライム3ポイントのダメージ。スライムベス攻撃。カツオ1ポイントのダメージ。カツオ攻撃。スライム2ポイントのダメージ。スライムベス倒れた。カツオは1匹のパラジウムを手に入れた。

カツオ町に出る。陽気な音楽。牢の中に友らしい人がいる。牢には鍵が掛かっている。近くにいる男に尋く。

男イマムラ「その鍵でしたら僕が持っていますよ。ちゃんと返して下さいよ」

カツオはイマムラから鍵を貰って牢からヨシダを助ける。

ヨシダ「助けてくれて有難う。貴方と一緒に

悪人を退治します。で、でも月水金は4時に帰るから…」

カツオ「よし、出発だ」

カツオとヨシダは町を出たところで石盤を見付ける。石盤にはこう書かれている。

カメイドームから北に100、西に23行った処にトーホクーンといふ村が在る。基処で商人ハラシマに会へるであらう。

二人は途中卓球場で武闘家カワノに会う。更にハラシマを発見する。

商人ハラシマ「お会いできて光栄です。やっぱりカツオは優秀なあ」

武闘家カワノ「私の弟子カトウが居なくなつてから一週間になる。協力して探してくれるか」

実はカトウは師匠カワノに扱き使われていて家で寝ていた。カツオの旅は再び始まる。この続きを乞う御期待。最後に登場するのは作者チャーリーIIのウラタでした。マツモトクエストに登場したい人々を我々は待っています。女性も大歓迎です。

さて松本研では無機錯体の合成とその触媒機能の研究をしています。どうぞ気軽に遊びに来て下さい。(文責:後宮春樹)

学部生の声

● 1年生

化学科の学生が集まるのは土曜日だけなので、まだ化学科はどういうところかはよくわからない。授業も手とり足とり教えてもらえる予備校とは違う。

一般教養の授業では、特に物理実験が苦痛である。全然理解できず、いつも終わるのはビリの方である。「化学科だからわからないでもいいや」と化学科のものは開き直っている。数学の微分積分の授業も全くわからない。これは化学科のものだけがわからないわけではなく物理科のものでさえもわかっていないから気にしていない。これに比べると、化学実験は楽で、すぐに終わる。物理科のものは手こずっているの、やはりこれは化学科の

強味である。

入学してから二ヶ月がたち授業に出てくる人数も日増しに減ってきた。化学Aの授業では代筆がばれて出席簿の代わりに出席票がまわってきてチェックされていた。化学科はまじめで、ほとんどみんな出席していたので恐い先生だと思いながら授業を受けていた。レポートを書いて取り上げられたものもいて本当に恐い先生だ。

あと一ヶ月でテスト。早くテストが終わり夏休みになって、朝ももっとゆっくり寝たい。そしてあの満員電車から開放されたい。

● 2年生

えーと、2年生の声であります。本来この原稿は、あ〇〇が担当していたんですが、彼がズボラなため、(無自覚、無責任、無教養ともいう)ナント、印刷の数時間前にHTLV-IIIが担当することになりました。それ

にしても、あ〇じ〇は、とんでもないことをしてくれた。稲化会界限の噂では、彼を退学にしようとか、あの写真のようにしてやろうとかいうことです。あの写真とは、高宮研のドアの左上の写真のことですから、みなさんは是非見に行ってください。さて、2年生の現況をおつたえしましょう。「ここは有機化学Cの教室、授業開始3分前であります。おっと窓の外を見ると一人の人物がこっちに走ってくる。新田先生であります。新田先生であります。授業開始時間前に教室にいらっしゃるとは、何と教育熱心なのでしょう。それに比べて、教室にいる学生はナント6人あります。たったの6人であります。そうこうしているうちに時計の針は1時をさしてしまっただけ。温和な新田先生も、余りの少なさにあきれております。おっと、ドアを堂々と開けて入ってくるヤツがいるぞ。先生を見つけて、あわてて席につこうとして、みんなに笑われております。授業も始まったことなのでこの辺で2年生の教室レポートを終らせていただきます。さようなら」というように、1年生のころの緊張は全く見られません。平均的大学生といったところでしょうか？ まあ、授業中や実験中に、いきなり歌って踊り出すものもありますが・・・というわけで、(どういわけだろう？)内容はともかく、30分原稿を書いた私はエライ。それにしても、教習所から独語をうけにやってきたのに、こんなものを書いて、教習所にもどる私は、いったいなんなのだろうか？ (HTLV-III)

● 3 年生

学部生の声だけれども化学科全員にウケるようなことは書けないので、この際、徹底的に自分本位の話題にしてしまう。私の好きなもの。こと。それは音楽。それは寺めぐり。音楽なら結構話題に乗れる人も多いと思うので、寺めぐりの話をさせていただく。あくまでも自分本位。さて、好きな寺を列挙すると。ほとんど京都。大報恩寺。禅林寺。慈照寺。正伝寺。竜安寺。広隆寺。祇王寺(京都)。室生寺(奈良)。極楽寺(鎌倉)。うーん。ミーちゃんハーちゃんしている。ま、いいや。この中で、仏像が良い寺は、大・禪・広(頭文字)である。前者の六観音像は圧観で、中でも聖観音が良いお姿でしばし立ちすくんでしまう。

中者は見返り阿弥佗のある所。像にたどり着くまでに否応もなく気分がひきしめる寺のつくりといい、期待を裏切らないお姿といい。後者は思い入れがあるので最後に述べるとして。他の寺は庭が良い。銀閣はいいとして、正伝寺は血天井(天井に血の手跡などがある)で有名だが、庭から見える比叡山もまたよろし。竜安寺の石庭にも負けない。祇王寺の雨あがりの竹林、室生寺のシダ林も言ふべきにあらず。極楽寺は小さいけど、春・初夏あたりすごく綺麗でよい。

急いでしまったが、最後。広隆寺の霊宝殿の不空羅索観音。これは、素晴らしい。弥勒様もメジャない。本当に良い。行って見てください。そこに秘めた人間のエネルギーを感じてエネルギー準位について考察してください。

● 4 年生

この原稿の注文が来た頃私たち四年生のうち十人ほどが教育実習に行っていました。かくいう私も六日から出身高校で化学の実習を行って昨日終わったばかりです。二週間の疲れが一度に出て体を動かすのも大儀なのですが、体に鞭打ってこの原稿を書いています。稲化会委員の少年A君がぜひ実習の様子を書いてくれと注文してきたのでそれに応えたいと思います。

実習に行ってもまず感じたことは、高校というのは研究室で毎日実験しているのに比べずっとのんびりしていることで、いつまでも実習生をやって研究室に戻らずに済ませることはできないものかとまで考えてしまいました。最近の高校生は少々冷めています、意外と素直でこちらも少し若返った気分になりました。私は二年生二クラスの化学の授業を受け持つことになりました。初めのうちは、見学と実験の補助だけをしていましたが、土曜日にイオン結合、共有結合についての授業をしました。事前に先生とよく打合せておいたため、何とか無難にこなしましたが、内心は命の縮む思いでした。

最終日は研究授業で他の先生方、実習生が見ている中、イオン性物質・分子性物質・金属の電気伝導性の演示実験を行いながら講義をしました。研究授業となれば化学らしくやはり実験を行わないと面白くありません。と

ころが肝心の実験がうまくいなくて焦ってしまいました。PYREXの試験管に食塩を入れてバーナーで溶かし、電気を通す筈だったのですが、時間を掛け過ぎた所為か導線を差し込んだら試験管の底がドロリと溶けてしまいました。私は気付かなかったのですが、後ろで見ていた友人の話によると、途中でバーナーの炎にナトリウムのD線が出ていたそうです。更に試験管に酢酸を入れようとしてこぼしたり、水の入ったビーカーを倒したりと散々でした。おかげで授業が終わった途端、力が抜けてへたり込んでしまいました。そのうえ午後からオーケストラ部の定期演奏会に出演してチャイ5を演奏するという暴挙に出たため、腰痛が再発し打ち上げも十分に楽し

めませんでした。

こうして二週間の実習が終わったのですが振り返って見ると長いようで短い二週間でした。初めの頃は夕食が喉を通らず自分でも気付かない内に緊張しているのだと分かりました。一緒に実習をした友人は五日目に神経性胃炎で点滴を受けるというアクシデントがありました。しかし後半は二人とも慣れて気楽にやっていました。ただ高校の先生といえども生徒から見えない仕事が多く決して楽な仕事ではないことが分かりました。教育実習で得られた貴重な経験を将来の生活に活かしていきたいと思っています。

松本研のお荷物 後宮春樹

自由投稿

以下の文章は、とある研究室での日記風雑記帳からの抜粋です。

6月16日

暑い。

中央線で中野までくる。

クーラーのきいてない東西線に乗り換える。

やだな~と思ってたら、

なんと、

その東西線にクーラーがきいていた。

願ってみるものであると思った。

でも、ど~せなら、学校のすぐそばまで電車が

いってくれたら。ついでに、65号館の前まで

ホームがいてれば。

おまけに、ドアの前に伊藤紘一研のドアがあ

ったら。

いっそのこと、電車のドアが研究室のドアにな

ってれば。

いやいや、このイスが、自分のイスでもいい

な、と考えていたらすぐ馬場についていた。

夢だ、みんな夢だ、とつぶやきつつ、しゃく

熱の地上に出ていった。

9月7日

めっきり涼しくなったとはいえ、やはり暑い。

人は、その時々でもんくが多い。

問句・・・？

9/22(木)が終わる。

あまりに時が早い。

なんてため息をついている間にも時が行って

しまった。

浦島太郎と太郎の母さん、父さん、じーさん、

ばーさん、ねーさん、おとうと、にーさん、

いもーと、友だち、は、どっちが幸せであろ

う。

裏と表。表と裏。

茶店に行って、準備中て看板があると

ついなんの準備をしているのかな？とのぞきた

くなる。

しかし、中の人から見ると、外の世界には、

営業中と看板が出てる。やはり、外の

やつらは何を営んでいるのかな？と興味引か

れる。 On each side

中立 side 斎藤

てなことを書いているうちに夜は明けた。

いつもの悲しい徹夜でした。こんなことなら

ずっと game してりゃよかったぜい。

でも、悲しい日の向こうには、きっときっと

きっと きっときっときっと

もっと悲しい日があるでしょう。テカ。

そしてそのことがうれしい。

いわゆるムカフーン打法である。

てっちゃんに、「セブンイレブンに行こう」

て言ったら「後でね」と言われてしまった。

うまいことを言うものである。

オリエンテーション感想

○ 1 年生

新入生オリエンテーションについて

新学期の授業が始まって1カ月、化学に対する期待が不安と化し始めた5月半ばの21・22両日、私達一年生は追分セミナーハウスでのオリエンテーションに参加させて載きました。前期試験まで残り50日となり、不安の肥大は進むばかり、試験の情報集めを狙って必死の気持ちで特急「あさま」で乗りつけたのでした。(という不謹慎者は私だけでしょうね、きっと)

冗談はさておき、1泊2日の共同生活で私達は様々な体験をしました。先生方、先輩方の有意義なお話、小雨の中でのサッカー、野球(これって、毎年恒例なんですか?)、夜の大(?)騒ぎ…また、同学年の友達と親しくなるきっかけともなりました。血中を駆け巡る小犬たちに調子づいていたヤツ、トランプに狂ったヤツ、彼らは完全に早大生と化していたようです。——どれもこれも、労を厭わず準備に御尽力下さった先生方、先輩方の御蔭と感謝しております。

ところでこの感想文(?)、1年生の稲化会委員のY君が前期試験もおし迫ったある土曜日に600字の用紙をもって原稿依頼に来て私が書くことになりました。一見正常な私を、中味も正常と思って頼んできたのは、仕事による疲れで彼の目がかすんできたせいだったのでしょう。稲化会報の発行に走り回られた皆様、本当にお疲れ様でした。

(期待を裏切るG8N×××)

○ 2 年生

昨年の楽しさが忘れられない我々G7N軍団は、当然のごとく今年も出席した。昨年は1人も2年生がいなかったにもかかわらずにである。1時集合と知り、余裕をもって9時に理工を出発したが、甘かった。高崎ICを降りた後の大渋滞を予想した者は誰一人としていなかった。その為先生方のありがたいお話しが聞けず大変残念(?)な気持ちでスポーツに臨んだ。その後夕食をとり、昨年とは違った趣向の親交会(要するに飲み会)で思う存分(?)ビール等を飲み大いに語り合った。その後G7N軍団は持ち前の結束力で2次会へと移行した。G8N数名の持ってきたビールを飲み大変盛り上がった。そして旧道での張り詰めたスポーツ走行で神経をすり減らしたG7N軍団は深い眠りへ突入した。明日への期待をふくらませて……。21日は皆の期待を裏切ってあいにくの雨となったが、G7N軍団を止められる物は何一つなく、雨をふきとばして、筋肉が痛くなるまでテニスをした。帰りは当然のごとく旧道を避け、峠の釜飯を食べ、高速では自分自身2度のハイドロプレーニング現象(別名チューブ現象)を体験しつつも無事東京にたどりついた。やっぱり遊びはつかれる(PZY)。とっても楽しかったです(YS)、みんな寝ちゃうんだもん(EB)、やっぱり来年も行くのかな?(YH)、こんどこそ晴れの日に行きたい(YM)、リヤがすべるすべる、フロントもすべるすべる。来年はドリフトだけ(TM)、私だってやればできるわ(プリンセス)。碓氷峠が死ぬほど楽しかった。今度は下りで走りたいよー(マルタ)追分はね……〇〇〇を決意したところでしょ(KZ)。あんなもんかって感じ(SW)。あ(女王)。やっぱり基本はMT車でしょう(PY)。

特別企画

原稿集めがはかどらないまま仕事をずるずるとひっぱってしまい各方面からひんしゅくをかっている今年の稲化会4年の者として、お楽しみ企画をおおびのつもりで掲載致します。各研究室を他の研究室から見た印象として短

かくまとめてあります。

●井口研はこう思われているんだ

伊藤(礼)研: now printing

伊藤(紘)研: $\Sigma = f \phi \psi @ \mathcal{L} (\text{機}) \star \delta \eta \zeta ?$
!?!……

高橋研: 正直な所、よくわかりません。

高宮研: 固有値が虚数になってしまう。

多田研: いつも扉が閉まっっていて、よくわか

らない。
新田研：空気がきれいであらやましい。
松本研：まじめですね。
●伊藤（礼）研はこう思われているんだ
井口研：ソート中
伊藤（紘）研：コンピュータで何をやっている
か私は、知っている。うっひっひ♡
高橋研：正直な所、よくわかりません。
高宮研：オブザーバブルが少ない。
多田研：65号館なので知らない。
新田研：何で51号館なの？
松本研：巨泉のクイズダービー
●伊藤（紘）研はこう思われているんだ
井口研：nlith パチ
伊藤（礼）研：syntax error
高橋研：真面目。
高宮研：苗字がMの人はわけがわからん。
多田研：金さんが渋くて素敵。
新田研：金さんすてき♡ウフ
松本研：落ちついた雰囲気であらやましい。
●高橋研はこう思われているんだ
井口研：formatting
伊藤（礼）研：人数多し
伊藤（紘）研：ろうすい注意？！！
高宮研：水道管ゲーム禁止!!
多田研：個人主義のイメージの強い研究室。
新田研：でかい装置が多い。
松本研：新人マンガ家現る。
●高宮研はこう思われているんだ
井口研：loading
伊藤（礼）研：床屋さん。
伊藤（紘）研：パラダイス銀河。

高橋研：楽しいイベントでお世話になってい
ます。マイケルがかわいい。
多田研：野球とか、お花見とか、行動的な研
究室。
新田研：でかい器具が多い。
松本研：床屋さん。
●多田研はこう思われているんだ
井口研：くさい。
伊藤（礼）研：女性が多い。
伊藤（紘）研：うらやましい。女の子？3人。
高橋研：女子が多い。男子は優しい。
高宮研：3人のM2がいい味を出している。
新田研：女性がたくさん（ハーレムか？）
松本研：地獄のハーレム。
●新田研はこう思われているんだ
井口研：激しく実験。
伊藤（礼）：先生が大きい。
伊藤（紘）：ドクター3人。重戦車研究室。
高橋研：男も女も酒豪ぞろい。
高宮研：陰でシキっているのはM美。
多田研：夜も更けてさみしい時にも、人がた
くさんいて楽しい。
松本研：ホットな研究室（何がホット？）
●松本研はこう思われているんだ
井口研：家庭的。
伊藤（礼）研：レイボー♫
伊藤（紘）研：5時から研究室。
高橋研：ゆかいな人が多い。
高宮研：二人称単数は「おやじっ」
多田研：クレーンがあつてうらやましい。
新田研：金持ち。

卒業生短信

菊地満：元気でやっています。子供が1才に
なりました。小林秀樹：社命により米国派遣
されることになりました。長瀬裕：相模中研
へ入り5年間で過ぎようとしています。早い
ものです。相模原の緑の中で日夜実験に励ん
でおります。横田昌明：トオマス・マンの短
編の翻訳を手がけています。岡部正美：学位
をとってすぐ渡来して以来すでに5年がたち
その間3回の職がえと3回の引越しをし、な
んとガキも1才6ヶ月。近頃は、真面目にAnti

-AIDS drug の開発研究にうちこんでいます。
望月卓：本年8月1日より頭畑産業よりタイ
現地法人に外向致し日本をはなれました。渡
辺雅一：今夏～秋に米国(Chicago)に派遣
される予定です。安藤克則：化学科の卒業生と
しては初めて特許業界にはいりました。毎日
英文特許明細書を作成したり、海外の代理人
に手紙を書いたりしています。上司はいない
も同然で海外代理人と対等にやりあっていま
す。年収12%増となりました。中山匡：古巣
に戻って9か月、どうも化学離れが進んでい
て化学科進学者はわずかですが、少数精鋭で
いきたいと思っています。学院に入学する生

徒でも中学校の理科の内容を理解していないものも多く(中学校で7年教えたものですから)、新しい元素記号など見ることができます。**奥和田(落合)久美**:遅ればせながら姓が変わりました。**神田東作**:発生・減数分裂・組換え・修復に関して菌類(キノコ)を材料として研究を進めています。現在は分子量8600のペプチドとその代謝に興味を集中しています。**庄司宏**:CIプロジェクトが終了し、会社にもどりました。4月には父親になります。**大和宏康**:本年より約3年間ニューヨークに駐在します。**澤田信吾**:今年の3月に結婚しました。体重の経時変化が $y = x$ のグラフのようです。**庄司和夫**:昨年8月に長男が誕生し、目下父親修業中です。仕事の方も順調ですが、製品開発に忙しく研究はなかなか手がつけられず頭の痛いところです。**杉原順平**:外資系の会社のせい、英会話の必要性が増し、「化学」・「英語」の主要2教科に迫られています。**山岡康子**:S62.12.2長男翔之介が誕生しました。現在産休中で育児にてんてこまいです。**矢島裕司**:ディーゼルエンジンの研究をしています。**井上健夫**:昨秋結婚し、女の街、宝塚に住んでいます。**岡田修司**:つくばへ来て3年半あまり“村民”に甘んじていましたが、11月30日より“市民”に復活しました。**佐々木一郎**:平日は仕事で夜遅く、休日は遊びで夜遅くと新田研で鍛えた体力?と根性で頑張ってます。**重野信一**:全国一巡を締めくくる沖縄国体では「日の丸、君が代」問題をはじめビッチリ仕事をさせられ、日本赤軍丸岡逮捕をきっかけに沖縄の関係者がゾロゾロ捕まりまたバタバタ。その上空をソ連機が領空侵犯。今日も自室に戻った午前2時をまわっていました。**都筑正則**:昨年9月より新しいテーマに取り組んでいます。現在はその第一目標突破に向けて頑張っているところです。またこれも昨年10月、会社にバスケットボール同好会が発足し、入会してしまいました。**市川誠人**:62年12月27日に長男・裕介が誕生しました。**田鍋文雄**:熱血監督は今日もインターハイを目指す!平塚光範:住所が変わりました。**宮沢英之**:業務はMOSプロセスを担当しています。女性が少ない為か年老いていく自分が怖い今日この頃です。**山崎秀子**:結婚して早や1年、昨年

11月より時々翻訳の仕事をしています、おむねヒマです。この機会に好きなことをやろう、などと考えています。**横山寿敏**:高温超伝導のmechanismを調べるべく、毎日忙しく研究しています。**赤尾恵美**:今年は1月4日に私の参加しているプロジェクトの大変大きなカットオーバーを控え、ほとんどお正月という気分ではありませんでした。**伊坂広明**:1月末まで巡回訓練のため茨城県東海村にいました。内容は自分の趣味を貫いて振動構造解析が中心でした。極めて不便な場所で、せっかくもらったボーナスを銀行からおろすひまありません。**鬼久保俊一**:本年4月より筑波研究所(新設)の方で仕事をしています。**金井裕之**:就職に伴い、引っ越しました。**鎌田俊英**:京都大学大学院理学研究科化学専攻後期博士課程2年に在籍しています。**須藤一典**:今年も教員採用試験を受けることになっております。今学習塾で働いておりましたが、教材製作のため徹夜するとき、4年生(6年生)の頃の泊まりこみ実験を思い、なつかしく思うほどです。**関山康紀**:中学ということで不得手な生物をえらそうに教えるのに苦勞をしながら、日々生徒とプロレスごっこの毎日です。**辻野敏文**:ある事情からオートバイ2台、車1台のオーナーです。スキーの板はロッシの3Gケブラーを買い年内に2度行ったり、忘年会etc忙しい年末です。お金は全く残らず、借金生活です。**十時信太郎**:南紀ならぬ西北紀州に移住して2年目になります。会社は寮のすぐ北側を流れる紀の川の河口、四国行フェリーの発着する島の上にあります。実験室では直接重合トナーや染毛ビーズ等、黒い小さな球状ポリマーを主に相手にしている一方、毎日抗菌活性樹脂で何億匹と大腸菌を殺しています。**長谷川敦子**:あいかわらず公害屋をやっております。去年は学会などへも行って少しはアカデミックでした。**村田直樹**:’87.10.25結婚しました。妻真紀 **梶谷英揮**:外国株式の運用業務に携わっています。10月の株式大暴落以後、ハードワークに従事する毎日です。**原英二郎**:今アブラムシをつぶしてそれからタンパク質をとっています。**横田知宏**:白衣を作業着に替え、実験装置をNMRから引張り試験機に換えてやっとなるがね。ここでは多田研の芳わしい香

りは楽しみませんが両隣の牛小屋から更に香ばしいものが漂ってきます。もっと言えば

生理用品関係の仕事もあります。みんな、うらやましいだろう。

会計報告

1988. 11. 28 現在

62年度繰越金	1,396,948
【収入の部】 会費	599,250
計	1,996,198
【支出の部】 印刷費	60,000
消耗品費	15,970
通信費	49,680
雑費	21,910
計	147,560
次年度繰越金	1,848,638
	(単位・円)

お願い

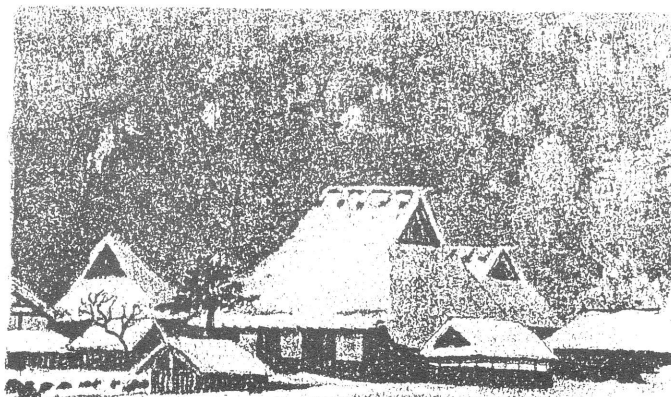
- OBの方々の消息等のご連絡をお願いいたします。また、自由投稿(小説・随筆あるいは漫画などでも結構です)や新企画等も募集しています。

〒169 新宿区大久保3-4-1
早大理工学部 化学科事務室気付

- 稲化会費を払いましょう。
正会員 1,500円、学生会員 750円、なお終身会費は30,000円です。
払って安心、終身会費…

稲化会役員

会長	高宮信夫	
副会長	長瀬 裕	
幹事	井口 馨	
評議員	井口 馨	伊藤紘一
	伊藤礼吉	関根吉郎
	高橋博彰	高宮信夫
	多田 愈	新田 信
	松本和子	長瀬 裕
	矢野圭一	中山 匡
	小又昭彦	井上国見
	宮田信郎	百瀬 浩
	小林慶裕	宮野浩行
	伊藤信一	塚田光男
常任委員	会計 新田 信	
	庶務 松本和子	
学生幹事	M 2 遠藤 茂	境野佳樹
	M 1 小西隆太郎	湯沢哲朗
	B 4 朝倉徹也	古瀬礼子
	長谷川健	
	B 3 泉千英子	植田佳代子
	神崎昌之	
	B 2 安久津良恵	朱島 隆
	岡美由紀	谷口浩和
	B 1 新井庸子	須藤雅之
	山澤直晃	



●不思議なことがたくさんある。あっちこちで怒っているやつが居る。うれしそうに、レイボー[♪]と歌っている人も居るが本当の心中は知らない。CDをダビングして呉れと頼まれた斉藤由貴のCDは金蒸着のものであった。光に透かすと緑青っぽく見える。音はアルミ蒸着のものに比べ、分離もエネルギーも段違いで再度びっくり。どうして違うのだろうか。金の粒径なのかな。それとも半導体レーザーの励起波長の問題かな。僕はCDがLPより音がいいと思ったのはこれが初めて。近年FM放送のほとんどがCDを音源にしている。それだから、このまえクナッパーツブッシュ指揮のワルキューレ第一幕がLPから放送された時は少々嬉しかった。フラグスタートはともかく、ブラベッツのチェロといい、往年のウィннаホルンの倍音の効いたこくはLPでしか味わえない。結局録音技術の進歩は音楽にとってプラスに働いたのだろうか。演奏家、特に指揮者がふがない演奏ばかりするようになってずいぶんになる。SP時代こそハイファイであったとする音楽評論家が居たが、そうまで言い切らぬまでも、確かに演奏家の黄金時代はとうの昔に終わってしまった。私はメンゲルベルクの指揮を非常に高く買ってきた。彼と手兵のコンサートへボウの演奏は、たとえそれが古いイギリスコロムビアのSPであっても聴き手の感覚を麻痺させるような濃厚甘美な響きの中にも独特な透明感が維持され、対立法の扱い方がものすごい力を生んだ。常に現世というvalence bandに足をふみしめながらも美的世界への憧れは、7 eVをも越え、我々を完全にドイツ理想主義とも云われた精神世界へ連れ去った。しかしふとした瞬間にIPEを経て更に突如としてvalence bandに戻り、そのとき我々は19世紀末のヨーロッパの没落を目の前にした時代と精神に打ち震える思いを与えられる。2光子放出するエネルギー分を1光子励起で何食わぬ顔で引き上げるのがメンゲルベルクの才能であった。往年彼を神とあがめた人々も今はその偉大な芸術を忘れかけている。フルトヴェングラーはわかってもメンゲルベルクは非難する人が多い。不思議なことである。バッハが形だけはバロックであっても内的には後期ロマン派さえも陵駕する血生臭い作曲家

であったことはメンゲルベルクによって初めて教えられた。近年、真に完成した芸術に結びついた個性を発揮できる人は皆無となった。化学の世界でも同じである。不思議である。

「川 柳」

4月

新入生 稲化会委員は 自発的

私達の時と違い大変優秀である。私達の時は月日と学籍番号が一致してしまったため強制的にやらされた。

5月

委員会 ついに全員 集まらず

一年間全学部生稲化会委員を一堂に集合させられなかった。一年生、三年生の面識がないらしい。来年が大変だ。

6月

コンピュータ 違いばかりの 名簿打ち

コンピュータを使用した名簿作り 進歩的と思われるが単漢字変換で一字一字の入力。誰かプログラムを改良してください。

7月

集めても 仕事しないで 話すだけ

『まあ会報は12月発行なのでいいだろう』と安易な考えだったが後で大変になった。

8月

夏休み 稲化会も 夏休み

文字通り

9月

校正に 時間がかかる 旧仮名遣い

お年を召した先生方が多いため、旧漢字にも頭を痛めました。

10月

原稿を 渋って書かない ○○研

まあ最後まで出さないのは稲化会委員のいる研究室。これは毎年のことらしい。

11月

原稿を 印刷すれば 終わりです

あ〜 やっと終わって発送のみ。

12月

原稿が 一つ足りない おお慌て

印刷所から原稿がないとの連絡。大変焦りその原稿をすぐ書いてもらった。こちらのチェックミス1号

12月末

印刷が 終了してから 原稿発見

依頼してあった原稿を会報に掲載し忘れて

しまった。これで今年も卒業式の謝恩会で皮肉られてしまうかも?!

このように適当、横着、怠慢4年生委員のために大変迷惑をかけてしまいました。私達を反面教師として稲化会を盛り上げてください。最後に一句。

会報と名簿のみ作る 稲化会

●ちょっと東京を離れて戻ってきたら、しばらく前とは打って変わって、とても寒くなっていた。町に行っていないのでわからないが、おそらくもうあちこちクリスマスの飾りつけがしてあって、音楽もジングルベルなどが流れている頃であろう。研究室ではラジオのクリスマス音楽でがまんしている。

研究室の窓から見た景色は、木の葉が全部落ちてしまった木や、枯れているのにまだがんばって木についている葉がたくさんぶらさがっている木々が見える。風に揺られるそれらの葉と、校舎を見ていると、電気ヒーターの前に座って原稿を書いているとも寒くなる。

戸山公園に住むスズメたちは羽がフサフサになり、まんまるい姿でチョンチョンはねまわっている。飼主につれられて公園に散歩に来る犬たちは大型のものでも上着を着ているものが多い。あんなに小さいスズメたちは何も着ずに自分の体を暖めているというのに…

しかし、それにしてもこの研究室は寒い。電気ヒーターを独り占めできても他に誰もいないとガランとして寒い。一人で食べた昼食のパンと牛乳もとても冷たかった。誰か早く来てくれないかなあと思っていたら、みんな来た。これで少しは暖かくなる。 K.K.

編集部よりのおわび

本会報に於きまして、編集上のミスにより一部の原稿が綴じ込まれませんでした。この場をお借りして、深くお詫び申し上げます。また、例年12月には発行されることになっている本会報ですが、編集委員の不幸により1ヶ月以上も発行が遅れてしまいました。御投稿下さった方々、また本会報の発行を心待ちにして下さっていた稲化会会員の皆様には多大なご迷惑をお掛け致しましたことも、重ねてお詫び申し上げます。

● 連絡事務室より

“先生方・学生の皆さん、連絡事務室って何をしているところだと思いますか?”暇そうだったり、忙しそうだったり、何やらいろいろやっついそうだけれど実際のところ何をすることかなと思っておられる方が多いのではないのでしょうか。

連絡事務室とは、一言で言うと学科のフロントであり、学部、大学院の出張カウンターでもあるのです。こう言えばなんとなく解っていただけるのではと思います。両者の接点ですから業務は多種多様であり、その種類の多さは大学職員の中でもトップに入ると言われています。したがって、私の立場も先生方や学生の皆さんとはその業務により変わるわけです。ある時は学科側、ある時は学部の事務所側七色変化とまではいきませんが、ご依頼・ご質問の内容によっては、逆のことを言わなくてはならない場合もありますし、これで結構神経を使っているわけです。優柔不断の様に取られがちですが、常に化学科の連絡事務室勤務の立場を忘れることなく対応していますので、その点をご理解いただけたらより一層ハイクォリティーのサービスができるのではと考えています。家庭的な雰囲気(利用しやすい)があり、しかも機能性(敏速な対応)に富んでいるそんな連絡事務室でありたいと心掛けております。ただコピーをするところとか、書類を貰ったり出したりするためだけのところなんて……………お考えなさいませぬようよろしくご理解ください。

将来、どんなかたちで連絡事務室が生まれ変わるか期待をもって見ていてください。そして、先生方や学生の皆さんのご協力をお願いいたします。

連絡事務室のおばちゃん

(まだ、こだわってますハイ)

編集部注：連絡事務室の直井さんは現在○オ。まだ若い人なのですが、高宮研のY氏が電話の取次のとき「事務のおばさんからです。」と言ったのが聞こえて(Y氏の声はよく通る)以来、非常にこだわっていらっしやるのだそうで……………